

「平和大通り公園の利活用のためのワークショップ」通信

この度は、「平和大通り公園の利活用のためのワークショップ」（第4回）にご参加いただきありがとうございました。本通信では、このワークショップ結果の概要についてお知らせします。

第4号

2025年3月
発行

日時:令和7(2025)年2月5日(水)18:30~20:30

場所:合人社ウェンディひと・まちプラザ

参加者:17名

参加者の皆様には、提供された情報などをもとに、第3回ワークショップに引き続き、日常的なイベント活用を促す仕組などについて議論していただきました。



■第4回ワークショップ(最終回)の目的とゴール

第4回ワークショップ(最終回)の目的とゴールを参加者全員で共有しました。

《目的》

田中先生の講演を踏まえ、前回に引き続き、「市民レベルのイベントを含めた日常的なイベント活用を促す仕組」について意見を出し合う。



《ゴール》

「いつも」「どこかで」「なにかやっている」平和大通り公園が活発に活用される仕組などについてポイントが整理される。

→平和大通り公園利活用のためのルール(案)に反映

■振り返り

グループワークを始める前に、今年度のワークショップの目的や「利活用のためのルール」の対象範囲を確認した後に、議論の前提条件となる利活用のための基本計画(令和3年度策定)及び利活用のための整備イメージ(令和4年度策定)を確認しました。また、第3回ワークショップ結果についても共有しました。

《4つの運営の方向性》

- “ひろしま”を伝える場所であること
- 平和を象徴する場であることを踏まえたにぎわいを作ること
- 誰もが使える空間であること
- 地元とともに作り上げ、使い続けていくこと

■情報提供 広島大学 田中教授による講演 「イベントとまちづくり」

平和大通りにおけるイベントの意義として、「小さな取り組みを重ねて、公園の新しい使い方を提案することにより、徐々に『あるべき将来像』を市民と共有する」ことの大切さをお話いただきました。



広島大学大学院
先進理工系科学研究科教授
田中 貴宏 氏



① まちづくりにおけるイベントの意義

- ハレの場の提供。←メイン
- 多くの人に、その場所を知ってもらう。
- 人と人のつながりをつくる(強くする)。
- 日常的な「場(公園)の利用」を促す。
- 新しい「場(公園)の使い方」を提案する。

→場(公園)の「使いこなし」に向けて

② 徐々に「あるべき将来像」を共有

■小さな取り組みを継続的に重ねる



小さな取り組みを重ね公園を「使いこなし」

③ 平和大通り北側緑地帯での社会実験

- コンサート・ストリートピアノ
- レストラン&カフェ
- Tree of Peace(クラフト体験)
- ハダシランド
- 花すくい等
- 平和はちみつの販売
- ...

④ まとめ

平和大通り公園の「使いこなし」に向けて

- ・ 「使いこなし」の後押しとなるような、小さな仕掛け、イベント、運営。
- ・ 小さな仕掛け、イベントの積み重ねの先に、あるべき将来像。
- ・ データの活用(効果を見ながら...)。
- ・ ...



□グループワーク 市民レベルのイベントも含めた日常的なイベント活用が行いやすい仕組みとは？

田中先生の講演もヒントにして、第3回ワークショップに引き続き、平和大通りが「いつも」「どこかで」「何かをやっている」日常的なにぎわいの場になるよう、市民レベルのイベントも含めた日常的なイベント活用が行いやすい仕組みについて議論し、出された意見を以下の4つのカテゴリーで整理しました。

各グループで話し合われた内容を発表し、様々な立場からの意見やアイデアを会場全体で共有しました。



1 仕組、ルール

- イベント運営のサポートが受けられる仕組み
 - ・イベントのノウハウのアドバイスを受けられる
 - ・初めて何かやりたいという人へのサポート
 - ・イベントのマッチングのサポート
 - ・過去のイベントを参考にできる仕組み
- 学生が参加しやすい仕組み
 - ・学生が主催するイベントは無料で使用させる
- こどもが集う場になる仕組み
 - ・ハダシランドのような無料でこどもが参加できるイベントを増やしていける仕組み
 - ・こども達のサードプレイス形成に資する場としての活用
- 地元が優先して利用できる仕組み
 - ・地域住民が予約しやすい仕組み
- 利用規約の簡素化
 - ・禁止事項をできるだけ少なく
 - ・ゲートパークのような条件でいいのではないかな。
- 手続きの簡素化（手続きが複雑だと使われない）
 - ・利用申し込みのオンライン化
- 情報発信の仕組み
 - ・ウェブサイト過去のイベントのアーカイブやイベントカレンダーの公開（担い手さんを知るツールにもなる）
- 資金調達、使用料に係るルール
 - ・減免の明文化（こどもの活動や町内会活動の無料枠 など）
 - ・企業からの寄付（企業版ふるさと納税など）
 - ・優れたイベントは市が運営費を一部負担する仕組み

2 体制・組織

- 平和大通りについての継続的な対話プラットフォームが必要
 - 定期的に意見が言える場の設置
 - 市民がアイデアを相談できるプランナー役を用意
 - 組織をまとめるリーダーが必要
 - 活性化委員会のような自主的に勉強会を広く展開できる制度づくり
 - コミッション制^{※1}の導入
 - ひろしま LMO^{※2}と連携 など
- ※1 コミッション制とは
▶売上や成果に基づいて支払われる報酬

※2 広島 LMO(エルモ)とは
▶地域が主体となって設立した広島型地域運営組織

3 ハード・環境

- 「いつでも、どこでも、緑や憩いがある」公園にしたい
- 東屋や日陰のあるベンチの整備
- 樹木にネームプレート等を付けて学習につなげる
- ノーベル平和賞の記念施設の設置
- こどもの飛び出し防止の対策
- イベント用電源があると使いやすい
- 最先端のトイレを導入して注目してもらう
- アストラムライン駅の延伸（平和大通り駅の設置）

4 その他

- 日常的なイベント活用と収益性が両立できるのか
 - ・継続性には収益必要。収益上がりにくいイベントとのアンバランス
- ゲートパークよりも人通りが少なく収益性が低いいため、使用料を市民レベルの値段にしてほしい
 - ・使用料が安い方が使いやすいが、事業者としては厳しい。
- ルールづくり等に際し、こどもの参画・意見や近隣の意見を取り入れる
- 学校や公民館とつながる
- 学校のクラブの活動・発表の場にしたい
- 売り手と買い手がコミュニケーションを取れる場

■ワークショップ閉会

「平和大通り公園の利活用のためのワークショップ」にご参加いただき、誠にありがとうございました。令和6年7月から合計4回開催したワークショップを通じて、様々なアイデア等を頂き意見交換を円滑に進めることができました。今年度のワークショップは今回で終了となりますが、平和大通りの利活用に向けて、引き続き、ご協力いただきますよう、よろしくお願いします。